

生きものを救え！大作戦

小中高生の活躍

ジンデ池生物研究所

小中高生の活躍

朝、気温がグッと下がった11月の日曜日。朝10時から、ゴム製の胴長(※1)を着た子ども達が池の中に入って、一面に広がった水草のヒシをとり除く作業をはじめました。ここは、須崎市安和にあるジンデ池(※2)。里山のほど近くにあるため池です。

子どもの思いが大人を動かす！

人と自然の関わり合いの中にも、様々な生きものの暮らしがあります。

農業用貯水池のジンデ池は地震や大雨で壊れないよう、整備することが決まっていました。植村さんは「今、この池に棲んでいる生きものを守りたい」という気持ちから調査を始めます。半年ほどの間に、絶滅危惧種に指定されている昆虫も発見。「これから先もずっと、生きものが棲みやすい里山の環境を残したい」と呼びかけました。その結果、生きものに配慮した工法として、ジンデ池の水を残したままの防災工事へと変更されました。彼の思いがまわりのみんなに届いたからでした。

トンボが好き、昆虫が好き

「高知市子ども科学図書館」(現高知みらい科



現在、約46種類のトンボを含め、120種を超す生物が見つかっています。



人が手を入れて守られている自然です。

池の全面をおおっていた菖蒲は、昨年約50名の方が参加してくれた保全活動で抜き取り半分ほどに。今年も保全活動を予定していますので是非！



トンボ大好き！ジンデ池生物研究所の所長・植村優人さん。現在、高知小津高校3年生。



前田蛭太さん(左端)、中澤陸さん(右端)も主要メンバー。



暖かく見守る植村さんの母・厚子さん。



珍しい虫を見つけた時は嬉し泣きするという黒岩拓真さん。



植村さんの弟・和希(かずき)さん。



植村さんの妹・萌実(めくみ)さん。

お兄ちゃんはすごい！

さっき、蝶々を捕まえたの。

森のまるごとSDGs

わたしたちにできること②

将来の夢は、昆虫博士です。

好きなことをトコトンやって！



ジンデ池の活動は、環境省主催・第11回グッドライフアワード 環境大臣賞を受賞。環境と社会を良くする取組が評価されました。

ジンデ池生物研究所

調査研究活動の他、生物多様性の大切さを地元の方々に伝えるために、セミナーや懇談会を年1回程度おこなっています。問合せ:080-1993-0982(植村)

活動内容は
こちらから→



秋になると池に帰ってくるマユタテアカネ(左)。オオカマキリ(左中)やクダマキモドキ(ハッタの仲間)(右中)、ひっくりかえって泳ぐマツモムシ(右)も発見。

一般の方が参加できる環境イベント等は、【高知県環境活動支援センター えこらぼ】HPからご覧いただけます。

詳細は
こちらから→



YouTube QR

この日の取材の様子はこちらから
もりりんチャンネル



Instagram QR